

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 11月 13日

【ホーム概要（ホーム記入）】

ホーム番号	3491500876		
法人名	特定非営利活動法人 地域の絆		
ホーム名	認知症対応型共同生活介護事業所 仁伍		
所在地	広島県福山市木之庄町四丁目4番26号 (電話) 084-983-2806		
自己評価作成日	平成24年8月23日	評価結果市町受理日	

※ ホームの基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成24年9月20日

【ホームが特に力を入れている点、アピールしたい点（ホーム記入）】

<p>個々のご入居者、の生活リズムに合わせ、起床時間、散歩、外出など、計画を立て細やかなケアを実施している。 ご入居者、の趣味を活かした活動等を行っている。 職員は尊敬の念を持って、ご入居者、と敬語で会話している。 ホーム内で完結するのではなく、行きつけ、馴染みの場所に行くなど地域へとつなげる実践をしている。 障害者の方をボランティアとして受け入れたり、子ども連れでも安心して働ける職場環境である。</p>
--

【外部評価で確認したホームの優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>認知症対応型共同生活介護事業所仁伍（以下、ホーム）は、福山駅の北側の住宅地内に位置しています。近くには小学校、中学校、スーパーマーケット、飲食店などがあり、利便性の良い場所にあります。ホームの周辺は道路が狭く、車の交通量が少ないので散歩に最適です。また、ホームは地域とのつながりを大切にされ、町内会に加入し回覧板は全員で読まれています。ボランティアの訪問も多く、障害者の就労体験を受け入れるなど社会貢献にも積極的です。子どもたちとの交流にも力を入れ、夏にはイベントを計画してつながりを深めておられます。また、乳児同伴で勤務する職員もいるなど、ホームの雰囲気明るくしています。開設2年に満たないホームですが、入居者の穏やかな表情や、職員の明るく元気に働く姿から、良好な関係が築かれていることが伺えます。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(1F 遊々)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員採用時の面接において法人の理念を説明し、理解・共感できた方に働いてもらっている。 地域の活動(廃品回収、町内清掃等)に積極的に参加している。地域の方にお会いした時は、こちらから挨拶をするよう指導している。 毎年、理念伝達研修を行い理念の共有を行っている。	理念は、毎日朝礼時に全員で唱和されています。ホームでは、毎週カンファレンス時に理念に沿って話し合い、実践に向けて全職員で共有されています。また、法人内で理念について全体研修を行い、意識統一が図られています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 入居者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域との関わりの中で、もっとまるごと福祉事業の行事への企画・参加を行っている。 年3回の法人主催の地域交流事業として祭りをを行い世代間交流を行っている。 散歩、畑作り、地域の子どもたちが学校の帰りに遊びに来るなど日常的に交流をしている。	地域との絆を大切にされています。地域で行われる「いきいきサロン」や「ゲートボール」に参加する入居者もおられます。また、地域行事には準備段階から職員が参加し、地域の一員としての役割を担われています。散歩の時に地域の人と会話をしたり、学校帰りの子どもに声かけしたり、時にはホームへ招くなど、日頃から交流を図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事に参加し、地域住民とご入居者様(認知症の方)との触れ合う機会を設けている。祭り等の準備段階から関わりをもち、ご入居者様にも店番などをしていただくことにより地域の方や子どもたちとも触れ合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月毎に開催し、ご家族様、町内会長、民生委員等の参加を頂き、ご意見、課題をもとにサービスの向上へ役立っている。また、ご入居者様にも参加していただくことにより、直接的に意見や感想を聞いている。ご入居者様が主体の運営推進会議を心掛けてサービスの向上を努めている。	会議は、2か月ごとに開催されています。参加者は入居者、家族、民生委員、町内会長、ホーム職員、市介護保険課担当者、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員など、全員で15~16人になります。会議では状況報告と意見交換が行われ、入居者や家族から意見や提案があります。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に出席して頂き事業所の活動報告を行い、他事業所の状況やご意見、要望を頂き参考になっている。 事故報告等を通じ、連携を取れるように取り組んでいる。	市職員が運営推進会議へ参加されています。また、訪問したり電話で相談したりして、常に連携を図られています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>1年に1度、法人全職員を対象に権利擁護、身体拘束の研修を実施している。</p> <p>ご入居様が無断外出される際にも、制止せず、見守りを行っている。</p> <p>施錠については、防犯上19時～施錠を行い、それ以外の施錠は行っていない。</p>	<p>年1回、職員が講師となって勉強会を実施されています。身体拘束の「ひやりはっと」や、言葉による拘束、不適切なケアがあった時はその場で注意し、カンファレンスの時に話し合われています。日々のケアを振り返りながら身体拘束をしないケアの実践に取り組まれています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>1年に1度、法人全職員を対象に権利擁護、虐待の研修を実施している。</p> <p>不適切なケアが虐待につながることを認識し、GHにおいて全体ミーティングを実施し、個人の持つ意見を話し合った。</p> <p>疑問に感じるケアなどある際は職員同士で声をかけたり、確認することにより不適切なケアを認識・改善するよう努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>1年に1度、法人全職員を対象に権利擁護についての研修を実施している。</p> <p>社会福祉士会等の主催する成年後見等の研修に参加するよう研修案内等を回覧し、参加を促している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、入居者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約事項について専門用語を使わないように説明している。また、その都度疑問点が無いかの確認を行い、ご家族の不安に答えるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する入居者、家族等意見の反映</p> <p>入居者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>「さわやか処理票」、「気付きノート」を用いて、ご家族様のご意見・苦情を受け付けている。ここで上がった苦情等については、週1回のミーティング時に話し合い、対策を立て、ご家族に報告を行っている。</p>	<p>家族から聞き取った意見は「さわやか処理票」へ記入されています。入居者の居室に「気付きノート」を置き、家族が意見や要望を記入できるようになっています。意見が出しやすい仕組みが整い、サービスやケアに関する要望は早急に対応されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>「何でもノート」を用いて意見等あれば職員に記載してもらい、週1回開催しているミーティングにて話し合いをしている。</p> <p>また、職員のニーズ等は事前に職員から意見もらい、2ヶ月に1回開催している管理者会議で情報をあげて対応している。</p>	<p>「何でもノート」に職員の意見や気づきを記入し、ミーティングで話し合われています。ホームで完結できないことについては、管理者会議や代表理事へ報告し検討されています。職員から、勤務体制や業務内容、物品購入に関する意見などが出され、運営に反映されています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>外部の勉強会の参加や案内等を掲示し参加を呼び掛けることで、意欲の向上に努めている。</p> <p>役割、担当を与え、やりがいなどが感じられるようにしている。</p> <p>人事考課を行い、職員の努力や実績などを把握するようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>各個人との面談を行い、目標設定の支援、具体的取組みを支持している。</p> <p>事業所内・外の研修への参加を促している。</p> <p>新人職員を対象にケアインレポートの実践を行い、不安、疑問点に随時答えられるよう取り組んでいる。</p> <p>2週間に1回勉強会を実施して、スキル向上を目指している。また、順番に各職員が1つのテーマを担当している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>タウンソーシャルワーク連絡会に参加し、他事業所との意見交流の場としている。</p> <p>また、施設外研修へ参加することにより、同業者との意見交流を促している。</p> <p>地域密着ケア研修会などに参加し、他事業所との交流を行い、意見交換を行っている。</p>		
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前に面談を行い、ご本人様に直接要望等を伺い、安心していただけるよう努めている。</p> <p>接遇3つのルールを基に、敬語、同じ目線で接するようにし、訴えに対してわかりやすい言葉で確認しながら回答している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にご本人様やご家族様と面談を行い、要望、質問などを聞く時間を設けている。 目線を合わせる、敬語を使う等の基本的な事を踏まえ、相槌、繰り返し等の面接技法を用いながら、しっかりと傾聴するように取り組んでいる。 「気付きノート」を用いてそれを基にご家族様と情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の状況を面接等で見極め、どんなことに困っているのか等を知り、支援するサービス内容を検討している。GHへの入居が適切か、小規模の利用やその他のデイサービスやデイケアの利用も提案してみることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	接遇3つのルールを基に命令形を使用せず、「○○して頂けますか？」と依頼系を用いて、尊敬の念を持って接し入居者が自己決定できるよう心掛けている。 ご入居者様に教えていただきながら調理をしたり一緒に歌を歌って過ごしている。また、職員はご入居者様と一緒に作った食事を必ずご入居者様と一緒に食べるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	GHでの様子を口頭や「気付きノート」を使用しお伝えし「まだ、こんなことが出来るんだ」という様な肯定的な側面をお伝えし、ご本人の思い等もお伝えし、一緒にケアについて考えて頂いている。 毎月の手紙でご入居者様の様子をお伝えし、昔の思い出などを聞きながらケアを行っている。 また、行事や祭りなどには必ずご家族様にも声をかけるなどご本人様との絆を大切に考え努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの店(以前通われていた美容院)に訪れたり、生まれ育った場所へ行くなどしながら、会話の中でも回想し、ご本人の生活を大切にしている。 友人や勤め先だった同僚の方などにも施設に遊びに来ていただき、なじみの関係が途切れないように努めている。	入居者は近隣出身者が多く、元気な頃から利用していた美容院や喫茶店、スーパーマーケットなど馴染みの場所があります。ホームでは、家族の協力を得ながら、入居者一人ひとりの馴染みの関係が途切れないように支援されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○入居者同士の関係の支援</p> <p>入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>面接時の情報により、出身地、趣味が同じなどの共通点があるご入居者様同士になるよう配置し、グループが形成していけるよう支援している。</p> <p>また、活動(おやつ作りや調理、散歩など)を通して小グループができるように取り組んでいる。</p> <p>ご入居者様からご入居者様への声掛けをお願いすることで関わりをもつ機会を設けなじみの関係ができるよう支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>畑作りを行う際には利用されていたご家族様に土を分けてもらうためご入居者様と訪れた。懐かしく思っていたが、後日、施設に足を運んで下さりご入居者様や職員に会いに来てくださった。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>週1回開催しているカンファレンス・ミーティング時に各ご入居者様の話し合いを行い、情報共有し、アセスメントを基にご本人様のニーズを導き出している。</p> <p>ご入居者様にはその時の思いを決定できるよう、2択にしたり、答えやすい状況を作り希望を尋ねるようにしている。</p>	<p>カンファレンスの時に職員が意見交換し、入居者の状況を共有されています。意思表示の困難な入居者については、家族からの聞き取りや質問方法を工夫して聞き取られています。入居者の様子や声のトーンからも思いや意向の把握に努められています。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>ご入居者の生活歴等の把握を行い、日々の会話の中、ご家族様からの話などから、深めている。</p> <p>得意だったことなどを散歩や畑仕事、料理など役割を提供できるように努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>ライフチャートを用い、日々の生活の把握を行っている。ユニット内の「何でもノート」、週1回のミーティング時に情報を出し合いご入居者の状態の把握を行っている。「Drノート」を用いて病院受診など身体の状態の把握を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>週1回のカンファレンス・ミーティング時に話し合い、職員間で情報を共有し、ご家族様、専門職、ご本人様のご意向を考慮しながら、ケアプランを作成している。</p>	<p>入居者ごとに担当を決め、一人ひとりの状況を把握し、全職員で話し合って介護計画を作成されています。介護保険証の更新時に介護計画を評価し、見直しをされています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ライフチャートに1日の様子、流れ等を記入し、申し送り(入居者日誌)を通し、情報の共有を図っている。また特に気になる事等は、「何でもノート」に記入し、週1回のミーティング時に話し合うようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>「気付きノート」やミーティング等からニーズの把握、状況に応じた支援・対応を行っている。入居者との会話のなかで「昔からの馴染みのある床屋へ髪を切りに行きたい。」と言う声があったので一緒に馴染みの床屋に散髪に出かけたりしている。その時の発言を大切に、「居酒屋に行きたい。」という方には普通通っていたお店にお酒を飲みに行ったりしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域行事への参加や散歩等を通じて、近隣住民との交流を図っている。 住民宅の裏庭を休憩場所として使用させていただいている。また、地域のグランドゴルフにご入居者様が一緒に参加させて頂けるようお願いし、道具を借りている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>新規契約の際にはご入居者様のかかりつけ医を尋ね、GHの協力医療機関の説明をご本人、ご家族様に行い、希望のかかりつけ医を選択して頂いている。職員が日ごろの様子を受診時に手紙に書き、主治医にお知らせしている。また、歯科受診などかかりつけ医がはっきりしていない場合など、ご家族様やご本人様に聞き納得されたうえで受診を行っていただいている。</p>	<p>月2回の訪問診療があります。ほとんどの入居者がホームの協力医療機関を受診されています。他の医療機関を受診する場合は、基本的に家族対応ですが、ホームで記入した受診連絡票を提供し、適切な医療を受けられるよう連携を図っておられます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日々の様子や状態をライフチャートに記録している。</p> <p>受診、往診時には、必ずご入居者様の状態をまとめ、スムーズに受診できるようNs、Drに伝え連携を取っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>入居者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力医療機関を通して、入院先の病院との連携がスムーズに取れるように努めている。</p> <p>また、入院された際には、GH内のご様子・状態を伝え、退院時には、日常生活を送る上での注意事項等の情報提供を頂いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時の契約の際に、看取り介護についての説明を行っている。</p> <p>医療、訪問看護と連携をとり、状態が急変される前からサービス担当者会議を開催している。参加できなかったNs、Drには文書、および口頭にて説明を行っている。また、家族の心理状態が変化した時には、繰り返し会議をもち、その都度の意思確認を行っている。</p>	<p>看取りの経験があります。また、看取りについて勉強会を実施されています。カンファレンスに家族にも参加してもらい、重度化した場合の方針を共有し、家族の思いにその都度対応できるように配慮されています。また、医療機関と契約し、看護師による24時間連絡体制を確保されています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>入居者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時の対応マニュアルを作成し、緊急時に備えている。AEDの取り扱い講習会を受け、実際に急変時にAEDを使用し、落ち着いて実践することができた。また、ひやりはっと事故報告書の基に話し合いを行い対策を立て事故予防に努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>昨年10月に防災訓練を全ご入居者様及び職員で実施した。</p> <p>地域の災害時の避難場所を職員が把握できるように事務所に貼り出している。町内の防災訓練には、地域住民と一緒に毎年、ご入居者様と職員で参加し訓練を行っている。</p>	<p>想定される災害は、地震と火災です。訓練は年2回実施されています。町内の防災訓練に入居者と一緒に参加したり、地域の消防団と一緒に訓練を行うなど、地域との協力関係が築かれています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎朝、朝礼時に接遇3つのルールを復唱し、確認している。 また、何でも言い合えるチームを目標に職員間での注意・喚起ができるよう取り組んでいる。 居室、トイレ等への入室前には必ずノックをしてからと指導している。 排泄、入浴時に他人に知られたくない失敗を自尊心を傷つけないよう配慮して声かけを行っている。タオル等を渡し隠して頂く。	ホーム内に接遇のルールが掲示してあります。職員は、「敬語で話す」、「同じ目線で話す」「してくださいと声かけしないで、して頂けますかとお願する」という3つのルールを共有し、入居者の人格や尊厳に配慮したケアに取り組まれています。	
37		○入居者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご入居者様へ話しかける際にはゆっくりと目線を合わせ、○○して下さいとの命令形ではなく、○○して頂けませんかの依頼形を使い、自己決定ができるように声掛けしている。 食事、更衣等、ご入居者様の自己決定を引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	外出を希望する方に対しては制止をせず、行き先をお聞きして、職員が同行している。 食事はご入居者様の個々のタイミングに応じて居室で食べて頂たりしご本人の希望に沿って提供するようにしている。 新聞を読むことを日課にされているご入居者様に対しては、新聞が購読できるように勧めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容の際には、ご自身で髪をといていただくなど鏡の前に立つことを支援している。 起床時や入浴後等、以前より使用されていた化粧品などを使用して頂けるよう支援している。 また馴染みの美容院などへ行かれるように支援している。 起床時や入浴後等、服と一緒に選んで頂いている。買い物時に洋服屋などにより気に入られた服などを購入している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の食材の話題、チラシやお店先で食べたいものを決める等し、献立を決めている。一緒に買い物に出掛け食材を購入している。 毎食、ご入居者様が食事作りに関わられるよう声かけを行い、能力に応じて皮むき、盛り付け、味付け等をして頂いている。 ご入居者様から外食の声があれば外へ食べに行ったりすることもある。	食事は職員が手づくりされています。メニューは、入居者の希望や、その日に揃っている食材によって決められます。入居者と一緒にメニューを決めたり、買い出しに行ったり、調理を手伝ってもらったり、食事作りに楽しんで参加してもらおうよう支援されています。また、食事は一人ひとりのペースでゆっくり食べられるように配慮されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>ご本人の好みに合った飲み物を提供させて頂き水分を摂取して頂くよう努めている。水分摂取量を記録に残し、水分量の確保を心掛けている。水分摂取が少ない方に対しては、ゼリー等を提供し水分量の確保に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後に口腔ケアを行っている。 また、必要な方に対しては、食前にも行っている。 義歯の方は毎晩外して、義歯洗浄剤につけるなど口腔内の清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>ライフチャートに排泄時間を記録し排泄パターンを掴むよう努め、トイレ誘導を行い自然な形での排泄を心掛けている。おむつの使用を減らし、布パンツへ移行できるように努めている。 自力でパンツの上げ下ろしが出来るよう、紙パンツから布パンツに変更し、パッドを固定している。</p>	<p>ほとんどの入居者が座位が取れるので、トイレに誘導されています。一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けての支援をされています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>しっかり水分を摂り、便通に良い食材を心掛けている。 散歩などの運動で体を動かすことでスムーズな排便を心掛けている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>ご本人の入浴したい時間に合わせタイミングを見て声かけを行い入浴して頂いている。毎晩、就寝前に入浴を希望されているご入居者様もおられ、就寝前に声を掛け入浴して頂いている。大きなお風呂に入りたいとご希望があり、小規模の浴室を借りて入浴して頂くことを計画している。</p>	<p>夕方の入浴を基本とされています。また入居者の希望により午前入浴、夜間入浴と柔軟に対応されています。入浴拒む入居者には、時間をずらしたり、声をかける職員を変えたりして、気持ちを動かす工夫をされています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりのタイミングで入眠して頂いている。室温、季節に合った寝具の調整を行っている。寝具の清潔に努め、週に1回、シーツ等の洗濯、布団干しを行って気持ちよく眠りに繋げている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋を処方録に記載し、薬の内容、副作用を読み理解するよう努めている。また、薬の増減、変更があった場合はミーティング等で情報の共有を行い、特に容体の変化がないか見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	以前、幼稚園に勤めておられた方には職員の子どもの子守りをお願いし、子どもが来るのを楽しみにしておられる。誕生日にはご本人に、どのように誕生日を過ごしたいか希望をお聞きし、外食など行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常会話の中で発せられた希望を大事にしている。朝の散歩で、地域のグランドゴルフをしてみたいと言われ地域の方にお願ひし、道具をお借りして時々、グランドゴルフに参加している。ご家族の方にも、墓参りや外食などの外出にご協力を頂いている。	ホーム周辺の散歩が日課となっています。家族の訪問時には、一緒に散歩を楽しんでもらうように声かけをされています。また、入居者の希望を、家族と協力して実現できるように支援されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外食、個人の買い物等の支払い時は、ご自身の財布から支払いを行えるよう、支援、見守りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居時や面会時に、ご家族に都合のよい時間をお聞きし電話をかけた時に、話しができるようにしている。 手紙が届くとご本人にお渡しし、返事を書けるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、入居者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食卓周りの飾りつけに季節感を取り入れ、ご入居者様と一緒に飾りながら会話をしている。空調、室温、湿度は常にチェックを行い配慮している。トイレの場所がわかり難い方には、「トイレ」と表示し一人で混乱なく行けるようにしている。	共有空間は明るく道路側の大きな窓からは、道行く人が見えます。食卓とテレビコーナー、畳の部屋があり、入居者は思い思いの場所で過ごされています。食卓に花を飾り、壁には手作りの花が掲示してあり、季節感があります。また、イベント案内のポスターを掲示し、一緒にワクワク感を味わう工夫をされています。室内は一定の温度に調節されており、快適に過ごせます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓で気の合う方とゆっくり食事やお茶を飲みながら雑談ができるようテーブルの配置やソファの置き場所を考えている。一人でゆっくりして頂けるよう和室も活用している。気の合うご入居者様同士、お互いの居室に遊びに行ったりして過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた家具などを持参して頂いている。御家族の写真を飾ったり、以前から大切にされていた人形なども持って来ていただいていつでも手にとって頂ける様に飾ったり、畳での生活を好まれていて方は、居室に畳を敷いて布団での生活を継続されている。	居室には、エアコン、クローゼット、洋服掛け、電気スタンドが備え付けられています。ベッドが苦手な場合は畳を敷くなど、これまでの生活環境が継続できるよう支援されています。家族と話し合って、自宅からタンス、写真、手作り作品など、馴染みのものを持参し、自分らしい部屋づくりをされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	移動時以外では、車いすを使用せず、下肢筋力の維持、姿勢を保てるように椅子に座っての生活を行っている。 トイレの位置がわかり難いので「トイレ」とわかりやすく表示し、一人で行けるようにしている。		

V アウトカム項目（1F 遊々）			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営 (2F 楽♡楽)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	採用時の面接において法人の理念を説明し、理解・共感できた方に働いてもらっている。 また、イベントなどを通して、地域交流を図り、ご利用者と共に参加している。 また、理念伝達研修を行い、参加できなかった職員にもDVD研修を行い、共有出来るようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	出勤時、外出時など、すれ違う地域住民への挨拶の指導を行っている。 また、通学の子も達にも声を掛けたり、少しでも交流が持てるようにしている。 地域主体の行事等にも参加させて頂き、地域住民との交流の場を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域交流事業として開催している餅つき、音楽祭、などのイベント時に地域住民とご利用者様(認知症の方)との交流を持てるように取り組んでいる。また、イベント時には地域包括と協力し”何でも相談”コーナーを設けたり、事業所内の様子を知ってもらうために、掲示板を作り、施設内の紹介を行った。その他にも、キャラバンメイトとして、地域の方々に向けた認知症の講座を開催した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一回開催し、利用実績の行事報告を伝えるとともに、地域の課題についても、町内会長や民生委員様より頂き、当事業所が取り組めることを模索している。最近では、運営推進会議へご利用者の方にも参加して頂き、意見、要望などを基にサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の場で事業所の活動報告を行っている。その際に、意見や、アドバイスなどを必ず頂くようにしている。 また、事故報告等を通し、助言、意見なども頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束となる事について勉強会を実施した。また、新人職員より、ソファからの転落防止の為に、ソファを壁につけてはどうか？等の意見が出た時に、それは拘束に繋がる事を説明し、他の対応を話し合う等、チーム内でも話し合う場を設けている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会の実施を行った。不適切なケアについても話し合い、普段の業務の中で行われていなかを話し合った。また、ボランティアの受け入れを積極的に行うことで、外部の目を入れるようにしている。また、日常の中でも言葉使いなどを気をつけ、不適切な時にはユニット内で注意をしあっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護について勉強会を行った。参加出来なかった職員については、代表理事が行ったDVDを閲覧して頂き、レポートの提出をしてもらった。また、研修等の案内を行い、参加の呼びかけを行っている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約事項について、専門用語を使わないように説明している。またその都度、疑問点を確認し、重ねて説明している。また、改訂等があれば、改訂前後に案内を出し、不明点や疑問がある場合には再度、説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>さわやか処理や気づきノート、面会時の会話などから要望や意見などをくみ取り、週一回行っているカンファレンスで話し合い、対策などを家族へ報告をしている。また、運営推進会議で出た意見、要望に対し、参加されていないご家族に対しても分かるように資料を配布している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>申し送りノートを作成し、業務の気づきや、ご利用者に対する気づきなどを記入して頂き、ミーティングの中で話し合っている。また、2か月に一回開催される管理者会議の中でも状況などの報告を行っている。日常的にも話をする機会を設け困っていること等ないかを確認している。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>外部の勉強会の参加や案内等を掲示し参加を呼び掛けることで、意欲の向上に努めている。役割、担当を与え、やりがいなどが感じられるようにしている。人事考課を行い、職員の努力や実績などを把握するようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修参加を促す事はもちろん、新人職員に対してはケアリングレポートを通じて、思いなどの把握に努めている。カンファレンスの中でも必ず意見を言ってもらえるようにしている。法人内でも勉強会を開催し、勉強をする機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>タウンソーシャルワーク連絡会に参加し、他事業所との意見交流の場としている。また、その他の研修(認知症実践者研修等)にも参加をし、ネットワークを広げている。施設見学に来られた方とは積極的に交流を行い、情報の交換をしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>契約の前に面接を行い、その際に「敬語を使う」「視線を合わせる」といった基本的な事を踏まえ、相手の言葉を傾聴している。また、ご本人の訴えに対し、わかりやすい言葉で確認し、回答している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用開始前に面接を行い、ご家族様が不安に思っている事、困っている事を丁寧に聞き取りを行い、分かりやすく説明するように努めている。要望なども必ず聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の状況を面接等で伺い、確認を行う事で、今どんなことに困っているのかを知り、それに沿った支援が行えるように努めている。入居することをすぐに考えるのではなく、家族の思い、本人の思いを確認しながら、サービスの利用を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	接遇の3つのルールをもとに命令形を使用せず、「〇〇していただけますか」と依頼形を用いて尊敬の念を持って接している。ご利用者のかたと一緒に食事を作ったり、出来ることは協力をして頂いている。また、食事やおやつと一緒に食べることで、状況を一緒に感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族を含めた外出、イベントを実施しながら、本人との関係が継続していけるよう支援している。また、面会時に本人の状況等を伝えながら、一緒にケアについても考えて行っている。また、本人の意思確認などが難しい時には、家族に代弁して頂いたり、生活歴などを教えて頂き、ケアに反映している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前に通われていた馴染みの喫茶店に行ったり、以前よく行ったスーパーやパチンコに外出しながら、その場での馴染みの人と交流を持ちながら、その場での回想をして頂いている。また、面会が難しい方に対しては手紙を書いたり、家族から話を伺う等し、関係が継続していけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共通の趣味を持っている方(お花、歌等)、料理などの作業を通じて、グループ活動が出来るように取り組んでいる。 また、馴染みの方同士が隣の席になるように、席配置などにも配慮を行っている。また、耳が聞こえにくい方には、職員が介入し対応をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	看取りにより、契約が終了した後も、手紙や訪問により、その後の様子をうかがっている。また、地域等で会った際にも声かけ等を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	週1回カンファレンスなどで、各ご利用者毎に話し合いを行い、アセスメントをもとに話し合い、ニーズを導きだしている。また、家族にご本人の思いを確認したりしながら、本人の意向や思いの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始時にご家族より、生活歴の聞き取りを行っている。また、日々の生活の中からも、本人、家人から生活歴について聞き取りを行い、それをもとにアクトの実施等を行っている。また、新規の入居者に対しては、以前のサービス利用時の様子などをケアマネの方より情報を聞き、GHの生活がスムーズに移行し行けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1日の様子をライフチャートに記入を行っている。また、入居者日誌でその情報を申し送り、情報を共有している。 その方の生活に合わせて、入浴の時間なども決めたり、なるべく以前の生活習慣に近づけるようにしている。また、出来る事と出来ない事を見極める様にし、見守りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご利用者が自分らしい生活が継続できるよう、ご本人の持っている能力が活用できるような介護計画の作成に努めている。また、ライフサポートワークの導入を行い、その方を中心とした考え方が出来るように指導を行った。</p> <p>作成に関しては、カンファレンス時の情報等を反映させるように努めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ライフチャートに1日の様子、流れ等を記入し、申し送り(入居者日誌)を通し、情報の共有を図っている。また、週一回のカンファレンスの中で、再度実践を振り返りながら、対応の見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>面会時、カンファレンスの中でニーズの把握に努め、実践に移していった。なじみの喫茶店へ出かけ、交流を持ったり、ボランティアによつてのアクトの提供を行っている。</p> <p>また最近では、訪問マッサージを取り入れ、必要なご利用者の方に応じて利用している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域へ散歩へ行き、挨拶、日常会話をしたり、交流を図っている。また、行事にも参加し、子どもと関わる機会を作り、楽しみを提供出来るようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前の面接時にご本人様の希望のかかりつけ医を尋ねている。また、家人が受診の対応をして下さる場合には、かかりつけ医に対して日常の様子を記録したものを、家人に渡し、状況の説明を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>様子を記録にとり、都度情報共有を行っている。また、バイタルに異常にある場合には、直ぐにDr.,Ns,等へ報告を行っている。定期往診の際には、情報をまとめ、事前に伝えている。</p> <p>また、訪問看護の方が週一回来られる為、疑問、相談に応じて頂き、直ぐに対応出来るようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力医療機関を通して、入院先の病院との連携がスムーズに取れるように努めている。</p> <p>また、入院された際には、GH内での様子・状態を伝え、退院時には、日常生活を送る上での注意事項等の情報提供を頂いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時の契約の際に、看取り介護についての説明を行っている。</p> <p>主治医よりターミナルの宣告を受けた際には、ご家族様、医療機関、関係者等に協力頂き、カンファレンスを開催し情報共有に努めている。また、その都度、状況の確認を行いながら支援を行った。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>AEDの設置場所、取り扱いについて説明を行っている。</p> <p>ひやりはつとを記入し、ミーティング内で話し合い、事故防止に努められるよう、周知している。</p> <p>緊急連絡網、緊急時の対応をラミネートしユニット内に掲げている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>防災講習に職員の参加を行った。また、昨年、防災訓練を実施し、今年度も実施予定。</p> <p>また、避難場所の貼りだしを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎朝、接遇の3つのルールについて唱和して、意識付けを行っている。言葉の乱れを注意し、プライバシーの保護に努めている。 ご利用者の話をしている事を、否定するのではなく、傾聴しながらその方に合わせた対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	命令形ではなくて、依頼形を用い、自己決定が出来るようにしている。 個別に話を聞いたり、思いや希望が引き出せるようにしている。買い物や、食事メニュー、食材の選択などもご利用者にして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	外出に行きたいご利用者の方に対し、職員の都合に合わせるのではなく、寄り添っていけるようにしている。料理や、その方の嗜好に合ったものを提供したり、ご利用者の声を聞いている。また、体調に合わせて、臥床時間を設けたり、食事の時間をずらすなど、本人のペースに合わせて生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に好きな服を選んで着て頂いている。また、帽子や香水、化粧品などをその人が好きなものが身近にあり、いつでもおしゃれが楽しめるように環境を設定している。 また、外出時にはお化粧をされる方もおられる為、支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	材料から食事を決めたり、楽しみの一つになるように支援している。 また、味付け、材料切り、盛り付け等、その方に出来ることを提供し、参加して頂いている。 また、ホットプレートを使用し卓上で調理する事で、見て楽しまれたり、匂いを感じて頂く等、楽しみが持てるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分摂取量をライフチャートに記録し一日1000ml以上の摂取が出来るようにしている。また，ゼリーや嗜好品，コップの形態等にも配慮を行い，その方に合わせて提供を行っている。食事が少ない方に対してはDrに相談し，補助食品等の提供を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後に口腔ケアを行い，その方の状態に合わせ舌ブラシ等も使用し，口腔内の清潔に努めている。口腔内に異常が見られた場合には，直ぐに家族に連絡し，歯科受診を勧めている。また，流しで立って口腔ケアを行う事で，手続き記憶より自分で含漱が出来る方もおられる。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>ライフチャートに排泄の記録をし，それをもとに排泄パターンをつかみ，トイレ誘導を行っている。また，リハビリパンツから，布パンツへ移行したり，排泄の自立に取り組んでいる。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便パターンを把握し，それをもとに便座へ座って頂くことで，スムーズな排便へ繋がっている。散歩や，水分補をしっかりと行い，便秘の予防に努めている。また，お腹に温めたタオルを置き，マッサージを行う事で，排便を促している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>ご本人の入りたい時間に入浴が出来るようにしている。夜間の方もいれば，日中の方もいる。個浴も大切にしているが，他の利用(仲の良い利用者同士と一緒に入浴をし，交流，関係性を深めることも場面に応じて行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方に応じて日中も臥床する時間を設けている。また、希望に応じて和室も活用し、休んで頂いている。 昼夜逆転の方に対しては、日中に本人の好きな活動を提供し、夜間安眠できるように働きかけている。また、夜間入浴して頂く事で、夜間良眠に繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	カルテに処方録として、薬の一覧、作用、副作用などをファイルしている。 服薬方法を統一し、服薬ミスを防いでいる。 また、内服薬が変わった時には観察をしっかり行い、状態等の変化があればすぐにDr.、Ns.に伝え、指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴の中から、菜園を行ったり、散歩をしたり、楽しみが持て、気分転換に努めている。また、生活歴より、以前されていた看護師の仕事を活かし、包帯巻きを行ったり、その方に合った役割が提供出来る様にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご本人の希望に沿った外出が出来る様にしている。 買い物なども一緒に行っている。 時には、家族の力も借りながら、外出などの行事を行っている。 また、外に行かれない方に対しては止めるのではなく、一緒に付き添い、外出を楽しんで頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	おこずかいを家人より、預かり、本人が希望された時にはすぐに購入が出来る様にしている。また、自分の財布を持ち、千円程度で自分で管理されている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご本人が希望すれば、家族の電話連絡を行っている。また、手紙が届けば一緒に読ませて頂き、会話を膨らませている。時には、遠方にお住まいの家人へ手紙を送ったりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節が感じられるよう壁飾りを行っている。また、花、野菜などからも季節が感じられるようアプローチを行っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファ、和室を利用し、個別、小グループの居場所が出来る様にしている。また、席を馴染みの方向士が隣になれる様に誘導を行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご本人が慣れ親しんで来られた家具などを持ちこんで頂いている。また、ベッドではなく、布団で寝られる方等、その方に合った生活習慣を取り入れている。居室に、ご自身が書かれた絵を飾ったり、昔の写真、家族の写真を飾ったりしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>移動時以外では車いすを使用せず、椅子に座ることで、下肢筋力維持、座位保持等に取り組んでいる。座位保持困難な方にはポジショニングなども行っている。（座位や動作が楽に行える様）</p>		

V アウトカム項目（2F 楽♡楽）			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 認知症対応型共同生活介護事業所 仁伍

作成日 平成 24 年 12 月 2 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		各居室, ホーム全体の清掃が行き届いていない。	掃除が習慣となるよう実施。	・掃除の机を作る。 ・掃除をする時間, 勤務者を決める。	3か月
2		クライアントに対して, 職場の不満などをもらしている可能性あり。	職場全体であいさつ等活発に行える様にする。	・あいさつを徹底する。 ・明るく, 笑顔で接する。 ・ミーティング内で, 話し合う場を設ける。	3か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。